

半田東高生 13日に伝統の演舞

きりりり大江戸吹雪

この記事は
中日新聞社に
許可を得て掲載し
ています

半田東高校(半田市西生見町)で体育大会のある13日午後3時20分から、幕末の大老井伊直弼(彦根藩主)をテーマにした演舞「大江戸吹雪」が披露される。開校以来37年受け継がれてきた舞。折しも今年、NHK大河ドラマで、戦国時代の井伊家から題材を採った「おんな城主 直虎」を放送中。中山隆唯教頭(57)は「いい機会。半田東高の伝統となった演舞を多くの人に見てほしい」と話している。

(三宅千智)

練習に励む生徒たち
—半田東高提供



大江戸吹雪は一九六〇年レコード発売。「菊か葵か尊王」(昭和三十五年)の歌詞から始まり、

開国の決断、桜田門外の二年の体育の授業はすべ
変など直弼の生涯を顕して演舞の練習に費やされ
彰する内容で「男の魂」という。
ここに見る彦根の城の天彦根市の地元紙や同高
守閣」と締めくくられなどによると、七二年ご
ろ、文部省(当時)の中

演舞は、この曲(約二分半)に乗せ、一、二年生計六百四十人が赤や青など色とりどりの扇を手
に舞い、最後に「東」の
人文字を作る。卒業を控
える三年生へのお礼やエ
ールも込められている。
体育大会が近づくと、

長年勤務する鈴木秀澄
教諭(六五)は「衣装や太鼓
など関係者の協力もあり、
年を追うごとに進化し
続けているように感じる」
。久世雅人教諭(五三)は
同高一期生。「最初は
言われるがまま、訳もわ
からず踊っていたが、こ
れだけ長く続くとは。生
徒には伝統として大切に
してほしい」と語る。



大江戸吹雪のレ
コード—同校で